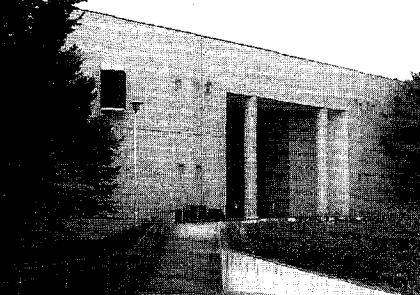


<p>福島大学附属図書館報</p> <p>書 燈</p>		<p>No.25</p> <p>2000.10.1 発行</p> <p>〒960-1293 福島市金谷川1 TEL (024) 548-8083 <a href="http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/">http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/</a></p> <p>福島大学附属図書館</p>
------------------------------	--	---

## 図書館の利用目的

経済学部 東田啓作

大学の学部時代に私が図書館を利用する目的は、大きく分けて3つ存在した。第1にレポートや卒論のために必要な資料（書籍、雑誌、新聞記事など）を探ること、第2に大学院受験に向けた勉強をすること、第3に友人と情報交換（単なる会話）を楽しむことであった。

レポートや卒論のための資料の検索は、書籍であればコンピュータ検索がもっともメジャーである。なんとなくしかわかっていないテーマであっても、さまざまなキーワードから短時間のうちに数多くの書籍を検索することができる。しかし、書籍のすべてが入力されていない場合もあり、その場合には目録で検索するということになる。目録検索は、1枚1枚めくっていく楽しみはあるが、時間がかかるため便利な検索方法とはいえない。

一方、新聞記事を検索する場合にも2通りの方法がある。第1にCD-ROMで検索する方法である。福島大学の図書館の場合、カウンターで必要な新聞（日本経済新聞と朝日新聞）の必要な年をカウンターの人に言えば、そのCD-ROMを借りることができる。あとはコンピュータを使ってキーワード検索をすればよい。必要な年次の必要な新聞のCD-ROMが存在すればよいが、ない場合には縮刷版をめくっていくしかない。これはかなり面倒くさい作業であるが、楽しみがないわけではない。かなり以前の新聞をめくっていると非常に懐かしい記事に出会えたりする。本来の目的を忘れてその記事を読みふけてしまったりすることもある。新聞記事以外にも、判例文献や統計年鑑のCD-ROMなどもあるのでぜひ使ってみるとよい。それから、ものすごく暇ができてしまったら縮刷版をめくってみるのもよいかもしれない。

第2の目的は勉強である。図書館で勉強することのメリットは、勉強を進めていく上でさらに詳しく調べる必要が生じた場合に、すぐにそれを実行できることにある。自宅や喫茶店などで勉強をしていると、参考書程度のものはすぐ手の届くところに存在するが、新聞記事の縮刷版、判例、条約集といったものまで存在することはまれである。また、コピーをする必要が生じた場合にも自宅にコピー機が存在することはめったにない。時間がたつと何を調べなければならなかったかが曖昧になってしまったり、調べるのが面倒くさくなってしまったりする。本格的に勉強をしていると、体系付けられた理論やその実例、正確な条文などインターネットからは手に入りにくい資料がどうしても必要になってくる。それがすぐにできるという点で、図書館は勉強をするのに適した場所なのである。

第3の目的についてであるが、私の在籍した大学の図書館には学生休憩室なるものが存在していた。そこは飲食・喫煙が可能で、勉強の合間にさまざまな人間がやってくる。リラックスできるように、大昔は立派であっただろうと推測できるソファも置いてくれてあった。勉強をしているとどうしても自分だけ取り残されているような気分になるのだが、そこに10分も座っていると大学院や公務員を目指して同じように勉強をしている友人が最低でも1人はやってくる。会話が始めると勉強と休憩のどちらが本当の目的かわからなくなってきたりもし、結構そこに行くのが楽しみであった。

今では図書館の利用目的は第1の資料の搜索に限られてしまい、少し寂しいような気もする。学生の皆さんにはぜひさまざまな方法で図書館を使いこなしてほしいものである。

## 「セーヌを見下ろすガラスの書庫」 新フランス国立図書館

行政社会学部 田村奈保子

1998年から在外研究で2年間滞在したパリの図書館紹介、とあって、新フランス国立図書館をあげないわけにはいかないだろう。98年秋本格オープンとなったフランス最大の図書館だからだ。正式名称は“Bibliothèque nationale de France site François-Mitterrand”、略して“BN (ベー・エヌ)”または“BNF (ベー・エヌ・エフ)”と呼ばれている。

故ミッテラン前大統領のもと推進されたパリ再開発計画の最後の大建築であるこの図書館は、パリ南東、トルビアック地区のセーヌ川岸に建設された。数年前まで物資の荷揚げ港や貨物倉庫があった地区で、今も周りにその面影が残っている。

旧BNは、パリ中心部パレ・ロワイヤルの北、オペラ座からも遠くはないリシュリュ通りにある。現在も古い資料を所蔵し、開館中だ。歴史を感じさせる重厚なこの図書館が蔵書を抱えきれなくなり、新しい大図書館の誕生となったわけだ。



BNFの外観は「セーヌを見下ろす4冊の本」といえばよいだろうか、直角に開いたガラスの本＝塔が中央を向いて台座の四隅に立っている。これが1千万冊を蔵する巨大な書庫である。足元の再開発工事と剥き出しの貨物線路のせい、その外観は無機質な印象を覚えさせる。本格開館にあわせて、パリ中心部からBNFを約10分で結ぶ無人運転のメトロの新線“Météor”も開通した。新システムのこのメトロは「巨人の一步」に例えられた。すべてが現代的だ。

開館後ほどなく、BNFは一時閉館を余儀なくされた。ストライキである。ちなみにフランス人のスト好きは有名だ。原因は確か、新しい勤務態勢への

不満とコンピューターのトラブルだったように記憶している。また旧BNからの本の引越しも完了しておらず混乱があるということで、私はしばらくBNFを利用しなかった。実は理由は他にもあった。旧BNでの体験が、私をBNFから遠ざけていたのだ。

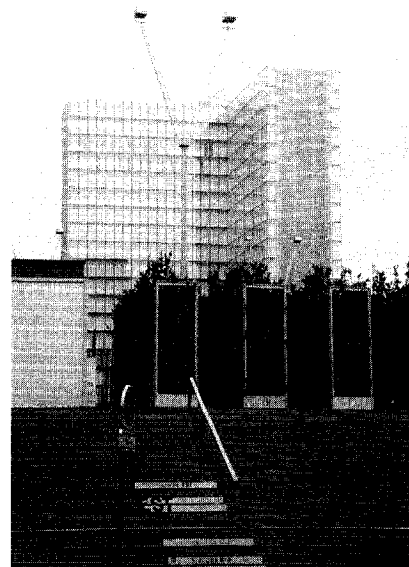
旧BNでは、登録手続きから閲覧室への入室、閲覧申し込み、コピーの取り方まで、慣れない私はいつまちはえて怒られるかといつもびくびくしていた。旧BNは研究者専用の図書館である。それゆえ“BN族”はパリの知的スノッブたちの憧れの的らしいが、何しろ物々しかった覚えがある。在仏歴の長い友人がBNFを評して、「入るまではとても不快、でも中は快適」と話した真意を、旧BNでの体験と勝手に結びつけ、私はなかなかBNFに足を向けなかった。ところが必要に迫られ行って初めて、友人の言葉の意味がわかった。ガラスの書庫を目指して最寄駅から歩き、階段を上ると、そこは夏はかんかん照り、冬は吹きさらしの空間。長いスロープのエスカレーターに助けを求めるかのように滑り込み、やっと館内へ。中に入れば一転、静かで広々したフロアが迎えてくれる。

BNFは一般にも上階が公開されているが、研究者用の下階利用の登録には、紹介状や研究目的の説明などが必要である。“BN族”の神話はまだここに生きているのだろう。それらのチェックが無事終わると、重い扉を何枚も開け、長いエスカレーターで地下へと進む権利を得る。そして地下のカウンターで、分野別の開架図書によって部屋を選び、席を予約する。フランスの図書館では席の予約がとても重要だ。席番号がないと書庫内の本の閲覧が申し込めない。席を決めて中に入れば、そこには快適さと静けさが溢れている。無機質な外観に反して中には安らぎが感じられる。高い天井、中庭からの光、木調の机や書棚、調べものに熱心な人たち……すべてが研究に最適だ。雰囲気だけではない、設備も万全である。各座席にはコンピューターのための電源が完備され、資料検索用コンピューターも数多く壁際に並んでいる。利用方法も改善された。旧BNでは席の確保が大変だった。混んでいればひたすら待つしかなかった。それも自分の番号が呼ばれた時その場

にしなければ、また新しい番号をもらってやり直した。その点BNFは次に来る日の席と、同時にその時閲覧したい本の予約ができる。BNF内はもちろん外からの電話でも可能だ。フランスの図書館では通常、書庫内の本の閲覧のために2、30分は待たなければいけない。そのためBNFのこのシステムはありがたい。快適なのは設備やシステムだけでなく、BNFで働く方々がとてもsympa（サンパ=感じがいい）なことも付け加えておきたい。

このように素晴らしい図書館であるにもかかわらず、私は十分に活用できなかった。私にとっては、99年秋からBNFで大々的に催された「ブルースト展」とそれに伴う講演会などの思い出の方が大きい。実際よく通ったのはパンテオン脇のサント＝ジュヌヴィエーヴ図書館だった。パリを守った聖女の名を冠したこの図書館の紹介の方がロマンチックでよか

っただろうか……。それはまた別の機会に。



思い出の一冊

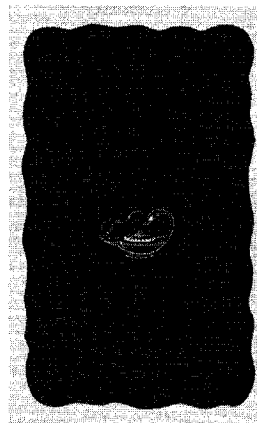
思い出の一冊

## 思い出の一冊

行政社会学部 稲庭 恒一

30年近く法律を教えてきたが、学生諸君に法律を理解してもらえるように教えることの難しさを、教える都度味わってきている。反面、学生諸君にとっても、法律を学ぶというのはたやすいことではない、と思う。私自身、40年近く前、大学で法律を学び始めた時、つくづくそう思ったものであった。

目（色神）の関係から、理科系はダメ、先生等々もダメ、と将来の進路が限定された中で、『法律を』と決めて法学部に進んだものの、1年生には法律が何かもよくわからないままであった。このころ、教養科目「一般法学」の授業で紹介されたイェーリングの『権利のための闘争』（1872年。岩波文庫）を読んだりしたが、法の目標は平和だが、それに達する手段は闘争である、権利が不当に蹂躪されたとき、蹂躪されたのは自分の人格であるから、命を懸けて闘わなければならない、闘わない者はウジ虫のごとく踏みつぶされても仕方がない、という主張に圧倒され、『性格の弱い自分には法律は向いていないのかも』と、弱気になったりしていた。そうこうするうち、2年生になり、法律の専門の中で基



本となる憲法と民法の授業も始まった。

当時は60年安保（日米安全保障条約締結）の数年後で、学内は政治・サークル活動が盛んであり、学生は今よりずっと自主性・積極性にあふれていたが、そんな中、同じ英語クラス（1クラス75名）の10名ぐらいで、法律の勉強会を持つということになった。そのテキストとして読み合ったものが、この末川 博著『法律』（岩波新書）であった。本書は、法律一般を学ぶことを、それを通して法律と政治・経済（社会）との関係を知ることが、眼目にしており、また、著者は、先に挙げたイェーリングの著書・主張が法律を学ぶきっかけになった、と言う。「弱気になった俺とはだいぶ違うなあ」と思ったことを覚えている。「社会と規範」「国家と法律」等から入り「法律の実践」に至る190頁弱のものであるが、1週間か2週間に1回、レポーターを決め報告・議論し、「難しい・難しい」と言いながら1年近くかかって、読んだように思う。法律は、学生として学ぶのも、教師として教えるのも、難しい。でも、学び教える価値は大いにある。

思い出の一冊

思い出の一冊

思い出の一冊

思い出の一冊

## 「雑誌記事索引 CD-ROM」の使い方

学術情報係

本館では、昨年度に新日本製鐵(株)製CD-ROMサーバ「NSCDNet Intranet」を導入し、学内LANをとおしてのCD-ROM利用が可能となりました。利用可能な端末はWindowsパソコンに限ります。また、学外からは利用できません。今回は、CD-ROMの中でも本学でもっとも使う頻度が高いと思われる「雑誌記事索引CD-ROM」の使い方について説明します。

このCD-ROMは国立国会図書館が製作・発行しているもので、国内雑誌の記事を調べる最も基本的な索引ツールです。学術雑誌を中心に約5,500誌の目次情報が収録されています。特に論文執筆時における先行文献調査には、なくてはならない必需品となっています。収録年代は1985～最新までで、年6回更新されます。

この、CD-ROMを使う場合は、パソコン側に初期設定及びDBセットアップが必要です。図書館ホームページの「CD-ROM検索」をクリックすると総合メニューが出ますので、初めての方は①初期設定②DBセットアップを必ず実行してください。それが終わればいよいよCD-ROMの利用が可能となります。

データベースメニューの一番上のアイコン



を選べば検索プログラムが起動します。

検索キーには、論題中の単語、論題名、著者名、雑誌名などがあり、刊行年、雑誌巻号による範囲指定もできます。このCD-ROMは同時に5人まで利用ができますので、他の利用者が使用中のため待たされる、という事はないと思います。是非使ってみてください。

CD-ROMの利用に関するお問い合わせは、学術情報係までお願いいたします。

## 図書館は出会いの宝箱

—— カウンター  
の内側から ——

教育学研究科  
高橋 秀幸

4月から図書館のカウンターとして本に触れることが多くなり、自分の本に対する考え方も大きく変わってきました。私の図書館の今までの利用機会といえばレポート作成のときだったり試験勉強だったりとあまり有効活用しているとはいえません。その私が図書館のカウンターとして本の貸し出しをしていると、実に毎日が驚きの連続なのです。

皆さんは図書館を利用するときに、必要な本を頭のなかにイメージして探す場合が多いと思います。しかも今はコンピュータで検索できるので、必要な本は高い確率で手に入れることができます。しかし、その必要な本とは自分にとってごく一部の本に過ぎないのではないかと考えるようになりました。どうということかという、図書館というところは実に豊富なジャンルと数がそろっているため、なんとなく本棚を見ているだけで「あっ、実はこんな本もあったんだ!」というような運命の出会いを果たすことがあるのです。

図書館のカウンターでたくさん本の貸し出し処理をしますが、学生さんが持ってくる本をみると「実はこういう本を探していたんだ」という発見や、

「こんな本もあったんだ」といった驚きがかかなりたくさんあります。これはまるで利用する学生の皆さんが、私に「こういう本がありますけどいかがですか」と紹介しているかのようです。

本との出会いは人との出会いに似ていると思います。私も大学院生になり本との出会いの輪を広げたいと思い、たまにブラッと図書館に足を運びます。そのときは特定の本を探すのではなく、本のタイトルをながめながら様々な本との出会いを楽しみます。私が大切にしている言葉のひとつに“IT'S UP TO YOU”(あなた次第)という言葉があります。これは、何事においても自分の心次第で楽しくもつまらなくもなるということです。図書館の中もまさに「あなた次第」といえるでしょう。

本は皆さんとの出会いを待っています。もし暇なときには本との出会いを楽しんではいかがでしょうか。私も図書館のカウンターとして、皆さんのお手伝いをしたいと思います。



【購入資料案内】

### 米国戦略爆撃調査団 日本関係調査報告 オリジナル・ドラフト

#### Records of the U.S. Strategic Bombing Survey

総務係

Pacific Survey Reports and Supporting Records 1928-1947

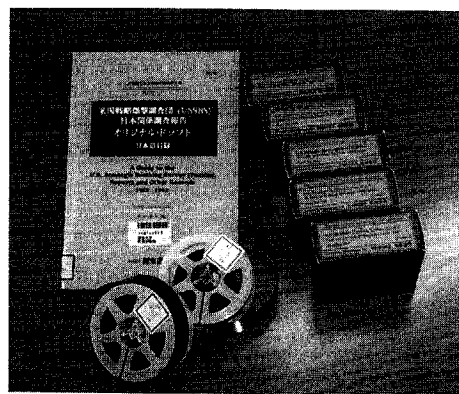
Documents on the Pacific Region and the War Against Japan

35ミリ銀塩マイクロフィルム 全507巻 附/解題・日本語索引

戦前及び戦中の日本の経済、政治、軍事、社会諸分野にわたって、極めて貴重な資料として評価の高い米国戦略爆撃調査団の膨大な資料を、マイクロフィルムで購入しました。

本資料は同調査団報告のうち「太平洋戦争報告」のオリジナル・ドラフトを複製したものである。調査団の直接の目的は米軍の戦略爆撃の効果を総合的に調査するためであったが、戦時期日本の軍事計画や戦争経済の実態、国民生活、戦意の推移、無条件降伏に至る政治過程、戦争被害の全貌について克明に調査し、膨大な日本側文書の収集、日本指導層の尋問、住民の面接調査、国情視察などの活動を通して、結果として戦時期日本の経済、社会活動に関する類のない稀有の資料を残すこととなった。

戦時期の日本では、多くのデータ・情報は軍の機密とされ公表されたものは極めて少なく、また戦災により消失・散逸した。本資料集には、戦時中日本の経済・産業の全体像だけでなく、軍需産業の実態、個々の企業の活動・分析も細大漏らさず記録されており、経営史をはじめとして経済史、政治史、社会史など多様な関連学問分野で利用が可能であると思われる。



## 学内教官著作寄贈図書を紹介

### 『日本の詩 近代篇』

大阪 和泉書院 2000.3

澤 正宏他共編著 (教育学部教授)



時代の表現を変えていった代表的な詩の鑑賞を中心としながら、詩人の紹介もあり、日本の近・現代詩を通史的にも論じている書物が欲しいと考えていた私と、友人の和田博文氏とが出した本である。初版(京都・白地社)は1990年4月に出され、一般書としては

もとより、大学のテキストにも採用されたためか三刷まで出された。後、出版社が倒れ絶版になったが本書を希望する方が多かったので、この度、増補改訂して出版したものである。

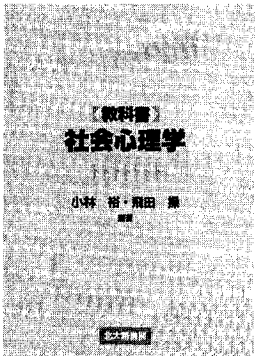
写真を多く入れたので、著作権、肖像権、再掲載権の交渉に手間どり、その上、初出形にこだわったので活字の組み方が大変であった。現代詩人の河津聖恵さんが、「こんな本が読みたかったのです」と返事をくださったので大変うれしかった。現代篇の再刊も考えているが、出版までにまた3年くらいかかるのかと思うと踏み切れないところである。

(請求番号911.56/SA93N/1 学内刊行物コーナー)

### 『教科書 社会心理学』

京都 北大路書房 2000.3

飛田 操他共編 (教育学部助教授)



社会心理学は、とても面白い学問です。

この学問の懐の大きさと深さに圧倒され続けています。やればやるほど、面白い。

この面白さを少しでも多くの人に伝えたくて、この本は企画されました。

社会心理学の面白さのひ

とつは、扱っている研究の対象や現象がとても幅広いことにあります。この本を手にとったら、まずは、もくじをご覧になってみてください。自己、二者関係、小集団、組織、社会、そして、異文化といった多様な問題が、社会心理学のテーマとなっているのです。

社会心理学のもうひとつの面白さは、アプローチの方法にあります。巧妙に計画された実験、洗練された調査、壮大な理論などを、できるだけ詳しく紹介しようとしています。

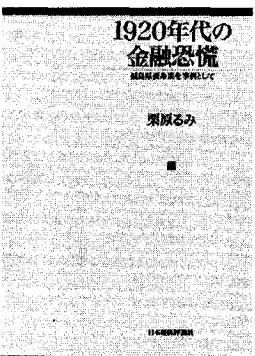
この面白さが、少しでも伝わればいいと思います。

(請求番号361.4/KO12K 学内刊行物コーナー)

### 『1920年代の金融恐慌』

東京 日本経済評論社 2000.6

栗原 るみ著 (行政社会学部教授)



「日本のバブルは経済の規模が円高で急拡大したのに、配分では格差が拡大し、過剰な資金が土地や株式にながれたためだから、格差問題にどう対処するかが不況脱却の鍵だろう。なのにどうして行財政改革なの？」英国に留学中、橋本財政について聞かれた質

問。説明したかったが、できなかった。

「橋本内閣は、1920年代の井上財政の勉強が足りないのかもしれない」と答えた。1920年代の悲劇の意味は今にどう生きているのか。帰国後『井上準之助論叢』を読み始め、国際化の荒波に呑み込まれた福島県蚕糸業の衰退過程とかみ合わせて、現代に生きる1920年代論をなんとか形にするのに、今までかかった。過去の総括を生かす歴史意識の彼我の違いについて考えるため、たくさん勉強した。

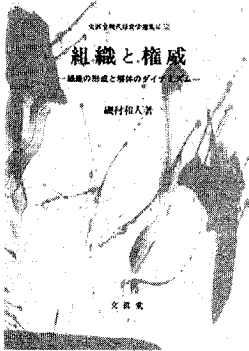
現代から出発する、総合的学際的など、歴史学が重要視してきた方法で歴史を顧みたいという衝動の結果が今のわたしにとって、ようやく本書である。

(請求番号632/KU61S 学内刊行物コーナー)

『組織と権威』

東京 文真堂 2000.4

磯村 和人著 (経済学部助教授)



組織のなかで活動していると、何かとストレスがたまり、嫌なことがあると、誰かのせいにしたくなります。ときには、酒の席で上司の悪口をいい、同僚に愚痴の一つもこぼしてしまいます。しかし、誰のせいでもないというのが真実ではないでしょうか。なぜなら、誰もが組織の

なかで思い通りに行動できていないからです。組織の活動は複雑にはりめぐらされた対人関係のネットワークのなかで行われているのです。

例えば、私たちはつい直接対面している上司との関係だけで物事を考えてしまったりします。しかし、上司と部下の関係は複雑にはりめぐらされた対人関係のネットワークから切り取られた一断面にしかすぎません。それぞれの人が他の多くの人々と複雑に関係を結びながら活動しています。本書は対人関係のネットワークのなかから組織がどのように形成され、変化していくか、そのダイナミズムを三者関係の視点から分析したものです。

(請求番号336.3/I85S 学内刊行物コーナー)

### その他の学内教官著作寄贈図書リスト

書名	出版社	出版年	著者	請求記号	所在
グローバルゼーションと地域	八潮社	2000.05	福島大学地域研究センター編	601.1/F84G	学内刊行物コーナー
統計学者豊岡康行先生追想集	西日本法規出版	1998.11	追想集編集委員会編	289.1/TO91T	学内刊行物コーナー
日本考古学を見直す	学生社	2000.04	工藤 雅樹 他	210.2/N77N	学内刊行物コーナー

図書館では学内関係者の著作物を収集しております。

出版されました際には、ぜひ図書館にご恵贈くださるようお願いいたします。

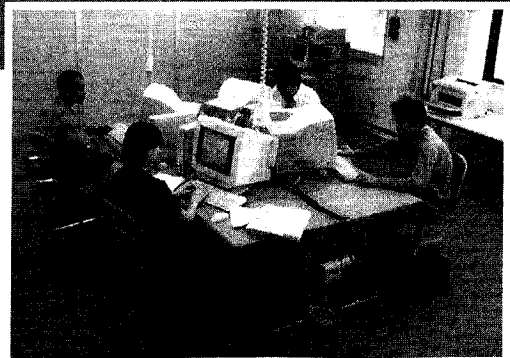
## パソコン利用開始!! 情報サービス係

マルチメディア室に4台のパソコンを設置しました。このパソコンは、レポート作成など自由に利用できるものです。

利用方法は、カウンターに申し込み、空いていれば利用可能です。

利用時間は、9時から20時30分までです。

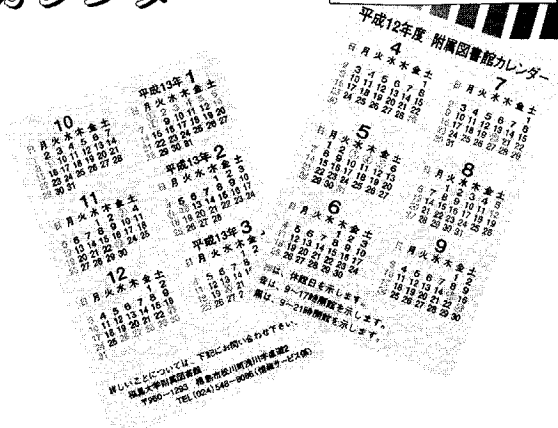
大いに利用してください。



## 附属図書館用カレンダー

情報サービス係

今まで書燈の最終面に開館・休館予定表を載せていましたが、前回のNo.24よりカレンダーに切り替えました。開館日・休館日はもとより、開館時間が色別になっていますので、見やすく利用者には好評です。カウンターに置いて自由にお取りいただけます。



詳しいことについては、下記に問い合わせください。  
福島大学附属図書館  
福島県郡山市南町1丁目1番地  
〒960-1292 電話0241-548-2000(内線977-100)

## 蔵書数の8割が検索可能になりました。

情報管理係

図書資料50万冊分が検索可能になりました。

遡及入力作業は、旧分館時代（1975年以前）の和書を終え、洋書に移りました。これまでの作業によって、和書のほとんど（一部複本を除く）が検索可能となりました。洋書についても既に1976年度以降受入資料について入力済です。現在入力作業中の洋

書を含めると本学が所蔵する図書資料50万冊分が検索可能になりました。これは、図書資料の8割に当たり、雑誌として検索可能な製本雑誌数を加えると蔵書数（約72.7万）の84%が検索になっています。マイクロ資料や楽譜、地図などの特殊資料についても遡及を進めております。

## 「国立大学図書館間共通閲覧証」の廃止について

情報サービス係

これまで、他の国立大学図書館の利用を希望する研究者（教職員及び大学院学生）に発行していた「国立大学図書館間共通閲覧証」は廃止となりました（平成12年6月28日国大図協総会決定）。今後は「共通閲覧証」に代わり、所属する大学で発行する

身分証明書、または学生証を利用受入館に提示することにより利用可能となりました。

なお、学部学生等が他の国立大学図書館を利用する際は、従来どおり図書館長が発行する「紹介状」が必要です。

## 学生用複写機が更新されました

情報サービス係

今年の4月から学生用複写機を開架閲覧室1Fに設置しましたが、10月に入り新しく更新されました。この複写機の利用に際しては、コピーカードが必

要です。事前に準備して下さい。

とくに、試験期間中は込み合いますから静かに利用して下さい。

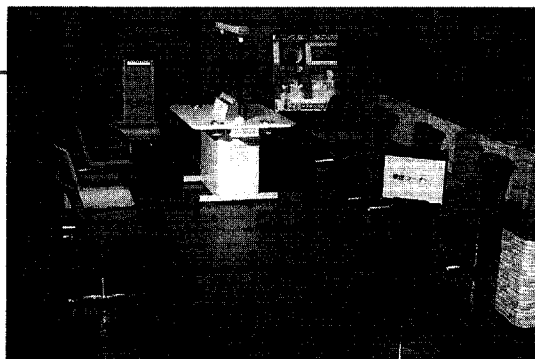
## タバコを吸う方は喫煙コーナーで!!

正面玄関に入って左側の軽読書コーナーの一角に喫煙コーナーを設けました。ここにはタバコの煙をきれいにするために、大型のエアークリーナー「スモークダッシュ」が設置してあります。

喫煙される方は喫煙コーナーをお願いします。

健康のため、吸い過ぎには注意しましょう。

(情報サービス係)



## 目次

- ・ 図書館の利用目的……………東田啓作(1)
- ・ 「セーヌを見下ろすガラスの書庫」  
新フランス国立図書館……………田村奈保子(2)
- ・ 思い出の一冊……………稲庭恒一(3)
- ・ 「雑誌記事索引CD-ROM」の使い方……学術情報係(4)
- ・ 図書館は出会いの宝箱  
—カウンターの内側から— ……高橋秀幸(5)
- ・ 購入資料案内  
米国戦略爆撃調査団 日本関係調査報告  
オリジナル・ドラフト……………総務係(5)
- ・ 学内教官著作寄贈圖書の紹介  
「日本の詩 近代篇」……………澤 正宏(6)
- ・ 「教科書 社会心理学」……………飛田 操(6)
- ・ 「1920年代の金融恐慌」……………栗原るみ(6)
- ・ 「組織と権威」……………磯村和人(7)
- ・ その他の学内教官著作寄贈図書リスト……………(7)
- ・ パソコン利用開始……………情報サービス係(7)
- ・ 附属図書館用カレンダー……………情報サービス係(7)
- ・ 蔵書数の8割が検索可能になりました……情報管理係(8)
- ・ 「国立大学図書館間共通閲覧証」の廃止について  
……………情報サービス係(8)
- ・ 学生用複写機が更新されました……情報サービス係(8)
- ・ タバコを吸う方は喫煙コーナーで!!  
……………情報サービス係(8)